

学校を核とした地域ぐるみの教育の推進

～「田布施町地域協育ネット」の取組～

【田布施町 田布施中学校区】

地域の概要

田布施町は山口県南東部に位置し、瀬戸内海に臨んだ東西8km、南北15.2km、面積50.35km²ほどの町です。南方海上には馬島が浮かび、北には飛地として小行司地区があります。

町内には小学校4校と中学校1校があり、各学校に隣接して公民館があります。

歴代宰相を二人輩出した町ということで、町民の学校教育に寄せる関心は高く、文化的教養を色濃くもちあわせた地域性や、建設的で生産的な気質と気概に満ち溢れた風土が息づいています。

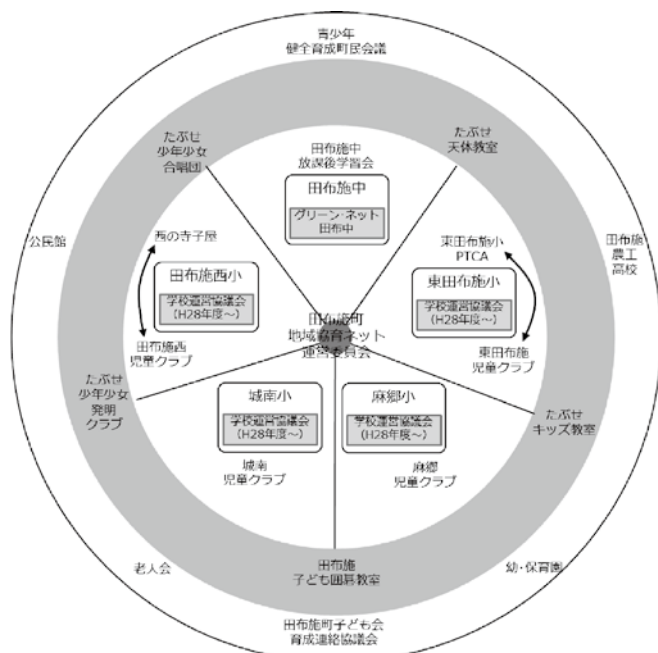
人口	15,753人	
世帯数	7,006世帯	
対象校 及び 児童 生徒数	田布施中学校	398人
	麻郷小学校	249人
	田布施西小学校	221人
	東田布施小学校	274人
	城南小学校	104人

組織の内容

田布施町では、平成24年度に「田布施町地域協育ネット運営委員会」を設置しました。昨年度までの活動は、九つある「放課後子ども教室」の運営によるものが主体で、児童クラブとの一体的な運用を効果的に進めながら、「地域の子どもは地域で育てる」気運を高めてきました。

今年度は更に、田布施中学校にコミュニティ・スクールが立ち上がったことに伴い、学校を核とした地域との連携・協働を推進する基盤が整いました。これにより、「地域とともにある学校づくり」を具現化する針路が明確化されるとともに、本町として新たな第一歩を踏み出しました。

また、来年度には町内全小学校にコミュニティ・スクールが設置され、中学校はもとより、準備期間である各小学校でも、コミュニティ・スクールの立ち上げに向けた体制整備が着々と進みつつあります。



【「地域協育ネット」運営組織図】

特色・重点的な取組

「田布施町地域協育ネット」の取組の柱は、大きく四つあります。

一つ目は「学校支援」です。学校の教育活動に地域の力を取り入れ、教育環境の更なる充実を図ります。二つ目は「地域貢献」です。地域活動への子どもたちの積極的な参加を通して、子どもたちの自己有用感や、地域への帰属意識を高めます。三つ目は「小・中学校の連携」です。児童生徒の交流をはじめ、教職員間の連携を密にすることで、小学校から中学校への接続を円滑にします。四つ目は「学校・家庭・地域をつなぐ『熟議』の開催」です。地域とともにある学校づくりをめざし、様々な立場の方が思いを語り合い、課題を共有し合って、新たな動きづくりにつなげます。

主な活動の紹介

【学校支援】

夏休み後半に3日間連続で公民館を借り切り、希望する児童を対象にサマースクールを行いました。

指導するのは、保護者、地域住民、公民館関係者、教員です。この取組はすでに10年以上継続しており、地域ぐるみで子どもを育てるという意識が定着し、学力向上に大きく寄与しています。



サマースクール

【地域貢献】

田布施町の恒例行事「さくらマラソン」は、県内外から多数の参加者でにぎわいます。その中で、中学校生徒によるボランティア活動が、ひととき大きな役割を果たしています。参加者から感謝の言葉をかけられると、はにかみながらも嬉しそうに受け答えをする生徒の姿が印象的でした。



さくらマラソンで参加者のチップを回収する生徒

【小・中学校の連携】

小学校児童と中学校生徒の交流を通して相互理解が進み、小学校から中学校へのスムーズな移行や「中1ギャップ」の解消に成果を上げています。支援する中学校生徒は、大きな充実感を味わっていました。



中学生による学習支援



放課後子ども教室での支援

【学校・家庭・地域をつなぐ『熟議』の開催】

初めて開催した熟議でしたが、テーマ「学校支援のあり方」について活発な議論が展開されました。熟議後のアンケートでは、「学校や地域の思いやニーズがよく理解できた」など、建設的で生産的な感想や意見が多くを占め、今後の取組につながる話合いになりました。



『熟議』研修会

成果と課題

コミュニティ・スクールの立ち上げを受け、「学校を核とした地域ぐるみの教育」がおぼろげながら形になり始めました。大きなてこ入れにつながったのは、熟議の開催です。これにより学校・家庭・地域の垣根が低くなり、相互の透明性が高くなりました。課題やニーズ、問題意識の共有こそが、協働に向けた第一歩であることを分かち合えたことは、何よりも大きな成果と言えます。

今後は、こうした地域の声を学校運営に生かすべく、具体的な取組を展開し、学校や地域の活性化につなげていくことが課題です。

今後の取組

来年度は、町内全ての小・中学校でコミュニティ・スクールが立ち上がります。地域性やそれぞれの思いが交錯する中、どこに立脚点を見い出していくかが重要になります。田布施町の特色を生かしたコミュニティ・スクールのあり方についても考えを深め、必要に応じて熟議を行うなどして望ましい方向性を探っていきたいと考えています。